

武蔵野銀行

営業統括部
CS推進室

加藤貴子 調査役

隙間時間で「段取り」を考え 仕事や家事をスムーズに遂行



「育 児休業からの復帰直後は、子どもがいることで

時間的制約ができたり、自分の仕事を誰かにお願いしなければいけないときがあったりすることで、仕事も育児も中途半端になっていたというジレンマを感じたこともありましたが、次第に時間の使い方が上手になったり、よりお客様の目線に立つて考えることができたりと、プラスの効果もたくさんあったと感じています」

こう話すのは、武蔵野銀行営業統括部・CS推進室の加藤貴子調査役だ。

出産前は営業企画部で調査役を務めていた加藤さん。約1年半の育児休業取得後は、武里支店の支店長代理として仕事に復帰。はじめの1年間は、子どもと自分も新しい環境に慣れるため、同行の時間短縮制度を活用し、通常より1時間短い勤務時間としていた。フルタイム勤務になった3カ月後、同支店窓口係の課長に昇進した。

2015年4月からは営業統括部CS推進室の調査役に。現在、CS推進室唯一の担当者として各支店・各本部と連携し、お客様満足度の向上に務めている。子育てという経験を積むことによって、よりお客様の目線に立つた対応を考えることができるようになり、CS推進室の業務にもその経験が活かされている。

加藤さんは、4歳になる長女を育てながら毎日仕事に奮闘する、まさに武蔵野銀行の「子育て中の女性管理職のバイオニア」ともいえる存在である。「子育てしながらはありますか」と、相手のスケジュールを確かめながらお願いするようにしています」

もちろん、仕事をお願いするからには、相手が困っていたり、大変そうにしていたりするときにはすぐにサポート。「私がやれることは何でも言ってください」と周囲に声をかけ、資料の配送準備や、来客時のお茶出しなど、どんな仕事でも率先して協力している。この「ギフアンドテイク」が、相手に気持ち良く協力してもらったための力ギとなるのだ。

突発的な休みに備えて
職場や家族に根回しを行う

子どもがいると誰しも経験するのが、子どもの発熱等による急な早退や休み。突発的なこうした問題に対しても備えを怠らない。

まず重要となるのが、自分が休んだとしても問題が起きないように、常に「自分の代わり」を用意しておくこと。例えば、武里支店に赴任していた際は、相続や資産運用等の提案でお客様と話をするときは必ずもう1名部下に同席し

ら働くコツは、ギフアンドテイクを心がけること・感謝の気持ちを言葉にして伝えること」とのこと。どんな働き方をしているのか、早速見ていこう。

子育て中の行員が

気持ちよく働ける職場環境に

「出産後も働き続けることについては、迷いはなかった」という加藤さん。夫や実母、義母から「女性も働いていたほうがいい」と言われたことも理由の一つだが、何より「仕事が好き」という強い気持ちがあった。

だが、育児休暇から復帰した直後は、思うように仕事ができないジレンマを抱えてしまった。そんなジレンマを解消したきっかけが課長に昇進したことだという。

「課長になることについては、正直とても迷いました。部下が仕事をしている中、子どものことで休んだりすると周りに迷惑をかけてしまつと思つたからです。ただ、ちょうどそのとき、同じ支店に子育て中の部下がいたので、子どもの学校行事や体調不良で早退



しないといけないときに、とても申し訳なさそうにしていたのですね。その様子を見て、私が課長となつて子育て中の行員がもっと気持ちよく働ける職場環境を作りた」と前向きに考え、課長になることを決意しました。当時の支店長と次長にも『良い経験になるから』と背中を押してもらい、本当に感謝しています」

周囲に協力を仰ぐ際には
相手の予定を配慮する

「出産後は働き方が大きく変わった」という加藤さん。どんな工夫

をしているのだろうか。まずは「無駄を省く時間の使い方」。特に『隙間時間』を大事にしているという。

例えば、以前は新聞を読んだり寝ていたりした通勤時間だが、現在は、新聞は朝に家で読み、行き電車の車中は職場についてからの仕事の段取りを、帰りの電車の中では家に着いてからの家事の段取りを考えている。通勤時間という隙間時間を使って、様々な「段取り」をきめ細かく想定することで、仕事と家事をスムーズに進めることにつながるのだ。

二つ目は「すべて自分でやる」としないこと。以前は、自分の仕事はすべて自分でやらないと気がすまなかったという加藤さんだが、時間的な制約ができたことで周囲に協力を仰ぐようになった。「自分の仕事に協力してもらうときは、相手の仕事に支障が出ることはないよう気をつけています。そのためには、切羽詰まつたお願いは絶対しないようにし、あらかじめ『こんな仕事をお願いしたいのですが、お時間をいただける